中山道おまけの旅　秋葉詣で　（H25．4／6･7）

　中山道の至る所で、秋葉山大権現の石碑や秋葉神社の祠が目に付いた。火防せ（ひぶせ）の神様なのだ。謂われや御利益や現在の秋葉詣でを調べたら、おもしろくてたまらない。これは、別の機会にゆずるとして、中山道仲間で「静岡浜松秋葉山本宮の秋葉神社へ行ってみよう！」ということになった。
１月末に４月６（土）７（日）と決定した。数日前は春爛漫。快晴続きの絶好の行楽日和。それなのに、ニュース・天気予報では、しきりに「週末は荒れ模様。今の天候は嵐の前の静けさです。お出かけは、お控え下さい。」と言っていた。前日は、「台風並の低気圧が通ります。立っていられないほどの暴風雨・突風・雷です。お出かけはお控え下さい。」と連呼され、画面はイベント中止の画面ばかり。うんざりするほどの大きな扱いだった。「どうしよう・・・・そんなこと言われても・・・」
　いまさら中止はできない。次の機会はないと、判断し、後は個人にお任せした。

　４月６日午前１１時　浜松城に集合。なんと９人が全員揃った。
「新幹線がね、ものすごく混んでいてね、今まで最高だった。」とのこと。高速道路だって、相当な車の量だった。
　なんか、日本人ってたくましい。にやり。
　浜松城見学が終わる頃ぽつぽつ降り出した。浜松餃子とラーメンで遅い昼食。気賀という趣のある街に着いた時は本降りになってしまった。気賀の散策は残念ながら中止。姫街道の関所があり、この日は１００人もの姫行列が見られるはずだったが、行列も中止。
　早めに国民宿舎に到着した。翌日の雨が上がることを祈りながら、楽しいひとときをゆっくりと過ごした。

　７日　風はあったものの雨は降っていない。夜中に暴れ、朝は通り過ぎた。なんとお利口な低気圧だったことか。予定通り出発できた。
　浜松からの秋葉街道を二の鳥居や、龍燈（常夜燈の立派なもの）を見ながら車で北上。秋葉神社下社に到着。
　車で４０分で上社に行くことができるが、江戸時代から明治時代に多い時は一日昼夜数千人以上が登ったと言われる徒歩２時間の表参道に挑戦した。歩き始めは、お日さまもきらきらして、旅籠・賭場所・茶屋などあった場所を想像しながら余裕で登って行った。会った人は４人、常夜燈も壊れたまま放置され、どこかうら寂しい。
　途中から　大雨・霧・突風と低気圧のなごりに見舞われた。Ｓ字の登山道では

なく直登だった。冗談っぽい会話もだんだん愚痴が混じっていった。
　それしても昔の人の健脚ぶりはすごい。どんな体の構造になっていたのだろう。合羽を着ても、雨なのか、汗なのか、湯気なのか、とにかくびしょぬれだった。
　そして頂上！やった～！私達を待っていてくれたものは、立派な本殿、厳かな雰囲気、太平洋・浜松市内・天竜川を臨む絶景だった。
　「火事にあいませんように。」と心から祈念し、青空を見ながら心軽やかに帰路に着いた。
　麓の電車の駅で解散した。ふと見上げたら、みんなのがんばりを讃えるように秋葉山に虹がかかっていた。

浜松城　家康像前

秋葉街道　二の鳥居前

秋葉神社本宮　本殿

表参道入口

（参加者：清水淳、清水計、清水正、山浦ひ、山浦る、林、安武、池田、宮下）

（文・宮下　明子）